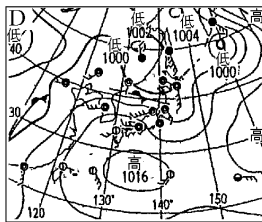
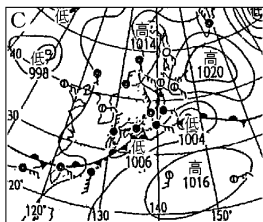
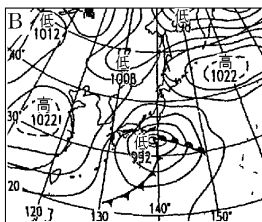
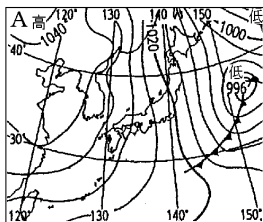


【FdData 中間期末：中学理科 2 年：日本の天気】
 [季節総合]

[問題](3 学期)

下の A～D は、日本の特徴的な天気図である。
 後の各問いに答えよ。



- (1) A, B, D の天気図は、それぞれ春, 夏, 冬のうちのどの季節のものか。
- (2) A の天気図でユーラシア大陸にある高気圧を何とというか。次の[]から1つ選べ。
 [シベリア高気圧 太平洋高気圧
 移動性高気圧 オホーツク海高気圧]

(3) Bの天気図では、低気圧と高気圧が交互にやってくる。大陸からくる高気圧を何とというか。次の[]から1つ選べ。

[シベリア高気圧 太平洋高気圧
移動性高気圧 オホーツク海高気圧]

(4) Cの天気図は梅雨の時期のようすである。日本にかかる停滞前線を何とというか。次の[]から1つ選べ。

[寒冷前線 温暖前線 梅雨前線
秋雨前線]

(5) Dの天気図で、日本をおおっているあたたかくしめった気団を何とというか。次の[]から1つ選べ。

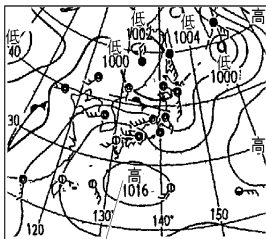
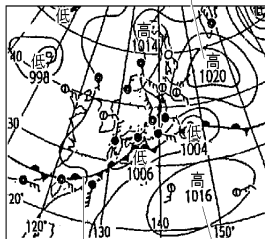
[小笠原気団 シベリア気団
オホーツク海気団 揚子江気団]

[解答](1)A 冬 B 春 D 夏 (2) シベリア高気圧 (3) 移動性高気圧 (4) 梅雨前線

(5) 小笠原気団

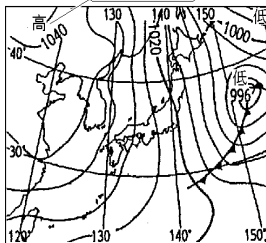
[解説]

[梅雨(6~7月)]オホーツク海気団 [夏]



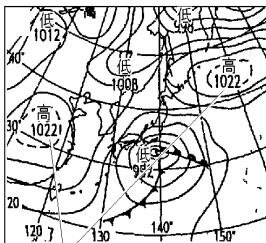
梅雨前線(停滞前線) 小笠原気団 小笠原気団が日本をおおう

[冬] シベリア気団




西高東低の気圧配置

[秋・春] 天気が周期的に変化



移動性高気圧(揚子江気団)

梅雨時期の天気図を見分けるポイントは、日本列島付近に東西にのびる ばいう ぜんせん ていたい 梅雨前線(停滞前線)  である。この前線は6月頃、オホーツク海気団と小笠原気団が発達して、接して勢力が かいきだん おがさわら つり合うことによってできる。

7月になると、しだいに小笠原気団の勢力が強くなって、梅雨前線を北へ押し上げる。これが梅雨明けである。夏の天気図の特徴は、日本が高気圧(小笠原気団)におおわれていることである。

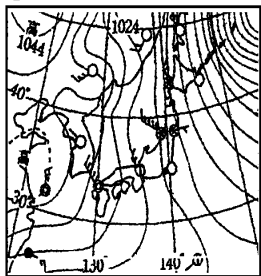
冬の典型的な天気図は、西の大陸付近に高気圧(シベリア気団)があり、東側に低気圧があつて、等圧線が南北に走り、^{せいこうとうてい}西高東低の気圧配置になっている。

秋と春には、^{ようすこうきだん}揚子江気団が発達し、その一部が^{いどうせいこうきあつ}移動性高気圧となつて日本を^{つうか}通過する。低気圧と高気圧が交互に通過するため、天気は3~5日ぐらいで周期的に変わる。

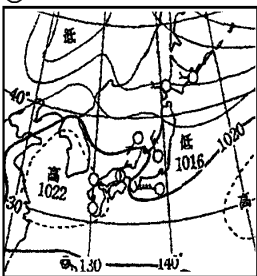
[問題](1 学期中間)

下の図は、日本付近の春、夏、冬、梅雨の天気図である。これについて、次の各問いに答えよ。

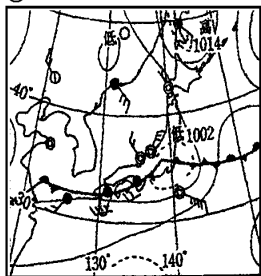
①



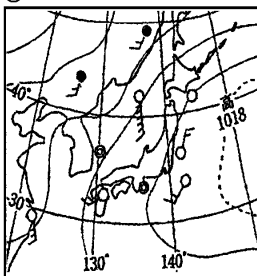
②



③



④



- (1) 冬の天気図はどれか。番号で答えよ。
- (2) 冬の典型的な気圧配置を何というか。
- (3) ④の天気図で日本の天気大きく影響している気団を何というか。
- (4) ③の天気図にみられる前線を何というか。

- (5) オホーツク海気団の性質を答えよ。
- (6) ①～④の天気図のうち、一定の天気が続かないで、晴れや雨などの天気が周期的に変化するのはいずれか。季節と天気図の番号を答えよ。

[解答](1) ① (2) 西高東低 (3) 小笠原気団
(4) 梅雨前線(停滞前線) (5) 気温が低く、湿度が高い。 (6) 春, ②

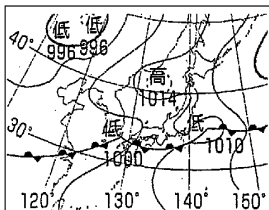
[解説]

①の天気図では、西の大陸の方に高気圧があり、東の方に行くにつれ気圧が低くなっており、どうあつせん等圧線が南北に走っている。これは冬の「西高せいこう
東低とうてい」の気圧配置である。大陸の高気圧はシベリア気団である。③の天気図では、日本付近の広い範囲でていたいぜんせん停滞前線が広がっている。この停滞前線はとくにばいう梅雨前線とよばれ、6月ごろ日本では雨の日が続く。④の天気図では、太平洋に高気圧があることから、夏の天気図と判断できる。この高気圧はおがさわらきだん小笠原気団である。残った②は春の天気図と判断できる。九州の西付近にある高気圧は、ようす揚子江気団から分かれたいどうせいこうきあつ移動性高気圧と考えられる。春と秋に、移動性高気圧と低気圧が交互に日本を通過するため、天気は3～5日ぐらいで周期的に変わる。

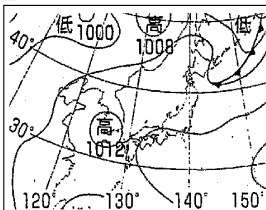
[問題](1 学期中間)

次の図は、各季節の特徴的な天気図を表したものである。これについて、以下の各問いに答えよ。

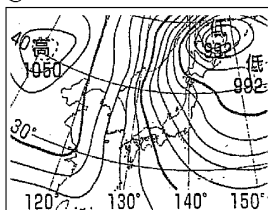
A



B



C



- (1) A, B, C のそれぞれの季節や時期を、次の [] からそれぞれ選べ。
[夏 冬 春や秋 梅雨]
- (2) 3~5 日おきに周期的に天気が変わるのは、(1)の [] の4つの季節や時期のうちのどれか。
- (3) B の季節に発達してくる気団を何というか。
- (4) (3)の気団の性質について、次の文の①, ②の () 内より正しいものをそれぞれ選べ。
気温は①(高温/寒冷)で、湿度は②(乾いている/湿っている)。

- (5) Cの季節に発達してくる気団を何というか。
- (6) Cの季節、日本の太平洋側の天気はどのような日が多いか。次の文の①、②の()内より正しいものをそれぞれ選べ。
- 湿度は①(乾いた／湿った)状態の、
②(晴天の日／くもりの日／雪の日)が多い。

[解答](1)A 梅雨 B 夏 C 冬 (2) 春や秋
(3) 小笠原気団 (4)① 高温 ② 湿っている
(5) シベリア気団 (6)① 乾いた ② 晴天の日

[問題](1 学期中間)

下の図1～図4を見て、後の各問いに答えよ。

図1

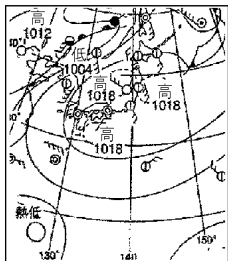


図2

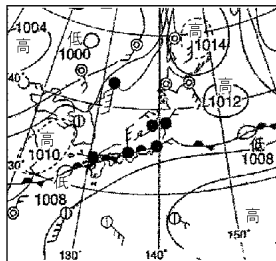


図3

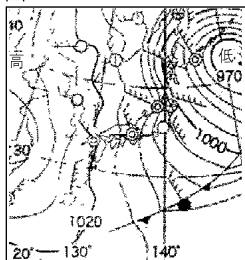
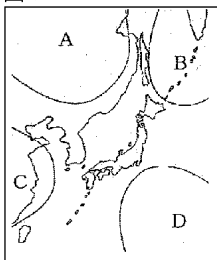


図4



- (1) 図1～図3は、1月、6月、8月に見られる特徴的な日本付近の天気図のいずれかである。それぞれ何月のものか。
- (2) 図3の天気図の気圧配置を何というか。
- (3) 図4のB、Cの気団の名まえを答えよ。
- (4) 図2の季節には、図4のA～Dのどの気団の影響をどのように受けるか、説明せよ。

[解答](1) 図1: 8月 図2: 6月 図3: 1月

(2) 西高東低 (3) B オホーツク海気団

C 揚子江気団 (4) BとDの気団の勢力が同じくらいで停滞前線ができる。

[問題](1 学期期末)

下の図は日本付近の天気図である。次の各問いに答えよ。

図1

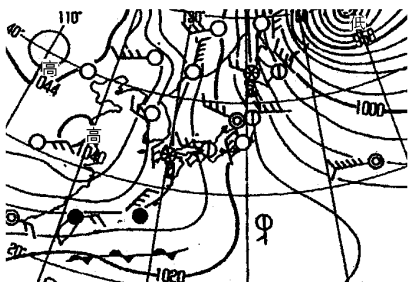
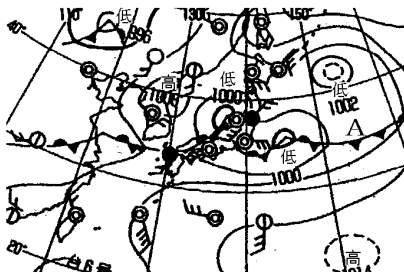


図2



- (1) 図 1, 2 の天気図はそれぞれいつの季節のものか。
- (2) 図 2 中の A の前線を何とよいか。
- (3) A の前線は何という気団の影響でできたものか。2 つあげよ。
- (4) 等圧線の間隔がせまいところでは風が強いかわい。

[解答](1)図 1:冬 図 2:梅雨 (2) 梅雨前線(停滞前線) (3) オホーツク海気団と小笠原気団
(4) 強い

[解説]

図 1 では西の大陸の方に高気圧があり、東の方に行くにつれ気圧が低くなっており、等圧線が南北に走っている。これは冬の「西高東低」の気圧配置である。図 2 では日本付近の広い範囲で梅雨前線がのびており、6 月の梅雨期の天気図である。

◆理科2年の各ファイルへのリンク

<http://www.fdttext.com/dp/r2t/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

http://www.fdttext.com/dp/qanda_k.html

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)
の価格・購入方法

<http://www.fdttext.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、
「iBooks」で開いてリンクをタップください。

【Fd教材開発】 Mail : info2@fdtext.com